

1 題材名 すてきなせんりつをみつけよう

教材名 表現（歌唱）（器楽）「海風きって」（高木あきこ 作詞 石桁冬樹 作曲）

音楽づくり 「せんりつづくり」

2 題材について

《学習指導要領とのかかわり》

A表現	(2) 器楽	ア 曲の特徴にふさわしい器楽表現を工夫し、思いや意図をもつこと。 (思考力、判断力、表現力等)
	ウ	思いや意図に合った表現をするために必要な(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。 (技能)
		(ア) 聴奏・視奏の技能 (イ) 音色や響きに気をつけて、楽器を演奏する技能 (ウ) 音を合わせて演奏する技能
	(3) 音楽づくり	ア 次の(ア)及び(イ)をできるようにすること。 (思考力、判断力、表現力等)
		(ア) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること。 (イ) 音を音楽へと構成することを通して、全体のまとまりを意識した音楽をつくることについて工夫し、思いや意図をもつこと。
【共通事項】	ア	旋律 音階 フレーズ
	イ	ト音記号 五線と加線

(1) 題材観

現代の日本社会において、子どもたちを取り巻く環境は急速に変わりつつある。スマートフォンやタブレット端末を通して、インターネットで世界中の様々な情報にアクセスしたり、自ら発信したりすることが、子どもたちにとって身近になってきている。

このような状況にあって、子どもたちの音楽への接し方も変化している。例えば、端末を通して、気軽に多様な音楽にアクセスでき、それを個人で楽しむということや、人口知能が音楽をつくったり、演奏したりすることなどがある。だからこそ、子どもが感性を働かせ、思考・判断し、学び合いを通して、創造的に音楽表現をしたり鑑賞したりする音楽科の学習が大切になってくると考える。

本題材では、旋律の特徴を感じながら歌と楽器を合わせて演奏することや、旋律づくりをすることを通して、子どもたちが楽譜を見て階名視唱や視奏をする活動に慣れ親しむことができるように進めていく。

小学校第2学年までは、リズム譜を見て演奏することを中心に学習を進めてきた。それ以外の楽譜を見て演奏することについては、範唱をまねて歌う模唱や、旋律を階名でまねて模唱したり暗唱したりする階名模唱や階名暗唱を中心に学習を展開してきた。3学年では、5線譜の学習が始まり、「ドレミで歌おう」「春の小川」の学習で、楽譜を見て階名唱したり、縦線、終止線、小節を楽譜から探したり、音符を書き写したり、ト音記号を書いたりする活動に取り組んできた。

本題材では、今までの学習を生かし、それぞれの旋律の特徴を感じ取りながら視唱や視奏をすることで、さらに楽譜を読む力を伸ばしていきたいと考える。また、旋律づくりの活動では、つくった旋律を五線の上に記録することで、記譜することができたという達成感や成就感を持たせたい。題材を通して、子どもたちがハ長調の楽譜にさらに親しみを感じ、抵抗感なく階名視唱や視奏することに取り組めるようにさせていきたいと考え、本題材を設定した。

(2) 児童の実態 (男子11名 女子13名 計24名)

本学級は明るく活発な児童が多い。音楽の授業にも前向きに取り組み、新しいことを学習するのを楽しみにしている。楽器を演奏することが好きな児童も多いが、一方で苦手と感じ、自信が持てずにいる児童も見られる。

①事前アンケートの結果

(1) 音楽の学習は好きですか。

好き 18名 まあまあ好き 3名 あまり好きではない 3名 好きではない 0名

(1) - 1 それはなぜですか。(記述方式、複数回答可)

	気持ち	聴くこと	演奏すること	楽器に関すること
好き・ まあまあ好き	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しいから 9名 ・音楽が好きだから 2名 ・落ち着くから ・歌を歌うと気持ちが良いから 	<ul style="list-style-type: none"> ・音がきれいだから 7名 ・いろいろな音が聞けるから 2名 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな音が出せるから 3名 ・きれいな音・声が出せると嬉しい 3名 ・楽譜が読めるから 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノが好き 3名 ・リコーダーで新しい曲を吹きたいから・ ・ピアノを習っている(習っていた)から。 ・鍵盤ハーモニカを演奏するのが好きだから、得意だから
あまり好きではない・ 好きではない	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗すると悔しい ・緊張するから 		<ul style="list-style-type: none"> ・(曲やパートを)覚えられないから ・楽譜を読むのが難しいから 	

②これまでの学習の様子

これまでの学習において、多くの児童は楽譜への興味関心が高いことがうかがえた。例えば、今月の歌で新しい曲を学習する際に自らみんなの歌を開いて歌おうとする姿や、ハ長調の楽譜を視唱したり視写したりする活動で、楽譜が読めたり、書けたりしたことに喜びを感じている姿が多く見られた。ピアノを習い、楽譜を見てすぐに鍵盤ハーモニカ等で演奏できる児童も数人いる。

しかし、楽譜に対する興味関心は高いが、視唱や視奏に難なく取り組んでいる児童の割合は低い。また、アンケートの中で、「(曲やパートを) 覚えられない」「楽譜を読むのが難しい」と答えた児童は、今までの学習の中でも楽譜を読んだり、書いたりすることに抵抗感を持っている姿が見られた。特に、「ドレミで歌おう」の教材では、楽しそうに歌っていても、ハ長調の音階を視写したり、縦線や終止線、音符の書き方を学習したりする場面になると、とたんに消極的になってしまう様子も見られた。

<考察>

音楽の学習について、前向きな気持ちを持っている児童が多い。特に楽器に対する興味関心は高い。いろいろな楽器や楽曲に触れることが楽しいと感じている児童が多い。

一方で、音楽の学習があまり好きではないと答えた児童の中には、「失敗すると悔しい」や、「(発表する時に) 緊張するから」といった、自分に自信が持てないという理由が挙げられている。また、「(曲やパートを) 覚えられない」「楽譜を読むのが難しい」といった、技能面で不安感を持っている児童も見られる。また、楽しいと感じている児童の中にも、楽譜の読み取りについては不十分である様子がうかがえる。

以上の結果を踏まえ、子どもたちの興味関心をさらに高めつつ、視唱や視奏の学習を段階的に進めていきたい。また、個人の実態に合った手立てを取り、子どもたち一人一人が「楽譜が読めた、書けた」という達成感や成就感を味わうことができるようにしていきたいと考える。

(3) 指導観

「海風きって」では、まず、二つの旋律を聴き比べ、聴いた感じの違いと楽譜の音符や旋律との関係を確かめる。聴いた感じと楽譜の音符や旋律との関係を丁寧に取り上げることで、その後の音楽づくりにおいて、思いや意図をもつ手掛かりとしたい。そして、今までの学習を生かし、階名視唱を行う。

その後、音を選んでつないでいき、旋律づくりの活動に取り組みさせる。さらに、つくった旋律を五線の上に記録することで、楽譜に親しみ、また、記譜することができたという喜びを味わわせたい。そして、最後に二つの旋律を重ね、拍の流れにのって演奏を楽しむ。自らが作った旋律が曲の一部となって演奏できた達成感や成就感を一人一人が持てるようにしていきたいと考える。

また、これらの学習活動を通して、視唱や視奏に慣れていくだけではなく、児童の発想を生かした表現の工夫を認め合ったり、友達と気持ちを合わせて演奏したりする楽しさや喜びも味わわせていきたい。

指導にあたっては、自分の思いや意図に合った音探しを多く経験させ、表現する楽しさを大切にしていこう。そして、一人一人の発想や感性、意欲を生かした音の組み合わせを楽しむために、一人一人に合った手立てを工夫していく。これらの活動を通して、一つの音にこだわりを持ち、自分の旋律をつくることの楽しさや一つの旋律を友達と一緒に演奏し、最後まで作りあげる成就感や達成感を味わえるようにしていきたい。

3 題材の目標

- ・ハ長調の楽譜に親しみ、音程に気を付けて視唱したり、視奏したりして読譜に慣れる。
- ・歌に合う音を選び、試行錯誤しながら即興的に旋律をつくる。

4 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
①ハ長調の楽譜に興味・関心を持ち、視唱や視奏をする学習に進んで取り組もうとしている。	①歌に合う音を選び、試行錯誤しながら即興的に旋律をつくっている。	①ハ長調の楽譜を読み取り、音の高さの違いに気を付けながら、階名で歌ったり演奏したりしている。 ②伴奏や互いのパートを聴いて、拍の流れにのって歌ったり演奏したりしている。

5 研究の視点について

視点1 9年間を見通した学び方の共有

本学級の児童は歌ったり、楽器を演奏したりすることは好きだが、楽譜を読んだり、書いたりすることは十分に身に付いてはいない。そのため、どうしても耳で聞いたままリズムや音程をあいまいに歌うことや、歌詞だけを見て歌うことがある。実態に応じて楽譜を読み解く力を高めていくことにより、これからの音楽活動の基礎としていきたい。

小学校第2学年までの学習では、リズム譜を見て演奏することが求められ、それ以外の楽譜を見て演奏することについては、範唱をまねて歌う模唱や、旋律を階名でまねて模唱したり暗唱したりする階名模唱や階名暗唱を中心に学習を展開してきた。3学年になり、「ドレミで歌おう」の学習では、音符の中にあらかじめ書かれた階名や歌詞の中にある階名を活用し、ハ長調の楽譜に親しんできた。また、これまで縦線、終止線、小節を楽譜から探したり、五線上の音符の向きや音の上がり下がりやに気を付け、音符を書き写したり、ト音記号を書いたりすることを通して、楽譜を読んだり、記譜する活動に段階的に取り組んできた。これらの活動を通して、楽譜に親しむことはできたが、正確に楽譜を読んだり書いたりすることはまだ不十分である。また、個人差が大きく、苦手と感じている児童は自信が持てず、前向きに取り組めずにいる。

そこで、2つの旋律を聴き比べ、感じの違いを楽譜を読むことで捉えたり、音楽づくりで、自分のつくった旋律を五線の上に記録したりする活動を通して、児童が楽譜に親しめる手助けとしていきたい。このことにより、学年や段階が上がり、新しい楽曲に取り組む際や、自分の好きな曲を演奏したいと思った際にも楽譜を読むことに躓いたり、抵抗を感じたりすることなく、豊かな音楽活動ができるようになっていくのではないかと考える。視唱や視奏したり、楽譜を書いたりすることに段階的に取り組んでいくことによって、主体的に音楽活動の楽しさを味わうための基礎作りとしたい。

視点2 主体的・対話的で深い学びの視点からの工夫

主体的・対話的で深い学びを実現するために以下の手立てを取る。

○自分の思いを伝えやすい少人数でのグループ活動

音楽を一緒につくるグループの人数を3人にし、自分の思いや考えを伝えやすい環境をつくる。また、学習活動の過程を①「個人でいろいろな旋律を試し自分のお気に入りの旋律をつくる」②「グループの友達と役割を交代しながらつくった旋律を聴き合う」とすることで、一人一人が思いや意図を持って音楽づくりの活動に

取り組めるようにしたい。

○子どもたち一人一人の意図を明確に、楽譜に親しめるワークシートの工夫

今回の音楽づくりの活動では、音楽を音に構成するにあたり子どもたちの試行錯誤を大切にしていきたい。そのため、ワークシート上で①「つくる」②「試す」③「五線に記譜する」という創作過程を繰り返すことができるようにする。これは試行錯誤を促して、新たな旋律を生み出そうとする意欲に繋がると考える。また、階名と音が結び付かない児童もいるので、鍵盤ハーモニカで音を確かめながら音をつないでいく。

ワークシートは3種類を用意し、一人一人の実態に応じて変更できるようにする。なかなか手が動かなく、どうしていいか迷っている児童には教科書の例を途中まで印刷し、その続きを考えることで作品ができて上がるワークシートを与える。このように、一人一人の実態に合ったワークシートを用いることで、音楽づくりの活動がスムーズにでき、自分の思いや意図も表現しやすくなると考える。

できた旋律は五線に記譜しておくことによって、今まで学習してきた読譜の学習のまとめとしてより楽譜に親しめるようにしたい。自分の作った旋律を自分で楽譜にすることの達成感や成就感が、これからの学習の意欲付けにもなっていくと考える。

また、旋律を記譜したワークシートを書画カメラを使って大型テレビに映し、全体で共有できるようにする。自分の作った旋律がすぐに提示され、友達に認められ、全体で共有できることで、児童の「もっと作りたい」という意欲を引き出し、工夫するポイントも明確にすることができると考える。

6 題材の指導計画及び評価計画（4時間扱い）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
第一 次		ねらい せんりつのとくちょうを感じて歌いましょう	
	第 1 時	海風きって（歌唱）（器楽）（音楽づくり） ○2つの旋律の特徴に気付いて歌う。 〔旋律、拍の流れ〕 ・範唱を聴いて、楽曲全体の特徴に気付く。 ・2つの旋律を取り出して聴き、楽譜を確かめながら、それぞれの旋律の特徴を話し合う。 ・気付いた旋律の特徴を生かして、 ア の旋律を歌詞で歌う。	ハ長調の楽譜に興味・関心を持ち、視唱や視奏をする学習に進んで取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度① 行動観察、表情観察、発言内容)
	第 2 時	○階名視唱し、鍵盤楽器で演奏する。 〔旋律、音階〕 ・これまでの学習を生かし、 イ の部分の階名を読む。 ・階名視唱し、暗唱する。 ・旋律の特徴を生かし、鍵盤楽器で演奏する。	ハ長調の楽譜を読み取り、音の高さの違いに気を付けながら、階名で歌ったり演奏したりしている。 (音楽表現の技能① 行動観察、演奏聴取)

第3時	<p>○2つの旋律を重ね、拍の流れによって演奏を楽しむ。 〔音色、旋律、拍の流れ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの旋律の特徴を振り返る。 ・4～5人のグループになり、演奏する役割を決め、拍の流れにのりながらアとイを重ね、歌声と楽器のきれいな響きを感じ取って演奏する。 ・グループごとに歌声と楽器のきれいな響きを確かめながら、拍の流れによって演奏したり、互いに聴き合ったりする。 ・クラス全体で、アの組とイの組に分かれて合わせて演奏する。 	<p>伴奏や互いのパートを聴いて、拍の流れによって歌ったり、演奏したりしている。</p> <p>(音楽表現の技能② 行動観察、演奏聴取)</p>
第4時 (本時)	<p>○旋律づくりをする。〔旋律〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イの最後の2小節の旋律の代わりに、挿絵の中から好きな音を選んでつなぎ、新しい旋律をつくる。 ・つくった旋律を互いに聴き合い、認め合い、良さを感じ取る。 	<p>歌に合う音を選び、試行錯誤しながら即興的に旋律をつくっている。</p> <p>(音楽表現の創意工夫① 記述内容、演奏聴取、発言内容)</p>

7 本時の学習 (4/4)

(1) 目標

歌に合う音を選び、試行錯誤しながら即興的に旋律をつくる。

(2) 展開

時配 (分)	学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準<評価方法>
3	<p>1 「海風きって」を全員で演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アを全員で歌い、イを全員で鍵盤ハーモニカで演奏する。 ・アとイの旋律の特徴を振り返る。 	<p>○情景や様子を思い浮かべやすいように、教科書の挿絵を拡大掲示する。</p> <p>○拡大した楽譜を掲示し、全員が自信を持って演奏できるようにする。</p>
3	<p>2 2つの旋律を重ね、拍の流れによって演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体で、アの組とイの組に分かれ、2つの旋律を合わせて演奏する。 ・歌声と楽器のきれいな響きを感じ取って演奏する。 	<p>○前時で学習した、2つの旋律のきれいな響きを感じ取って演奏できるように助言する。</p>
3	<p>3 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師がイの最後の2小節を変化させて新しい旋律をつくり、イ全体を演奏したものを聞き、どこが違うのかを見つける。 	<p>○最後の2小節を変化させて新しい旋律をつくったイの旋律を聞かせ、どこが違うのかに気付かせることで、活動への意欲と見通しが持てるようにする。</p>

音をつないでお気に入りのせんりつを見つけましょう

5	<p>4 旋律づくりの方法を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>せんりつづくりのルール ☆おわりの2小節をつくる。 ☆左からじゅんに1つずつ音をえらぶ。 ☆できたせんりつはけんばんハーモニカでえんそうしてみる。</p> </div> <p>・「せんりつづくりのルール」に沿って教科書の例を全員でつくり、つくり方を確認する。</p>	<p>○ルールを確認しながらつくれるように「旋律づくりのルール」を板書で示す。</p> <p>○拡大したワークシートで、例を教師が実演し、活動内容をつかみやすくする。</p>
10	<p>5 せんりつづくりのルールと教科書の例を参考にして、旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを使い、音を選んで旋律をつくる。 ・できた旋律は鍵盤ハーモニカで演奏し、試してみる。 ・試した旋律を五線に記譜する。 ・一つできたら、他にもできないか取り組む。 ・できた旋律の中からお気に入りの旋律を一つ選ぶ。 	<p>○鍵盤ハーモニカで音を確かめながら、音をつないでよいことを伝える。</p> <p>○できた旋律は必ず演奏してみて、まとまりのある音楽をつくるよう助言する。</p> <p>○音のつなぎ方を変更してもよいことを伝え、試行錯誤を促す。</p> <p>○旋律づくりが進まなかったり、考えがまとまらなかったりする児童には、途中まで音を決めてあるワークシートや、終わりの音を決めてあるワークシートを渡し、真似をして作るように助言する。</p> <p>○五線に記録する際の手助けとなるよう、ハ長調の音階を提示しておく。</p> <p>◆歌に合う音を選び、試行錯誤しながら即興的に旋律をつくっている。 (音楽表現の創意工夫①) <記述内容、演奏聴取、発言内容></p>
10	<p>6 できた旋律をグループで発表しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で作った、3人のグループになり、演奏する役割を決め、自分の作った旋律を順番に演奏する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつお気に入りの旋律を演奏する。 ・2人がアの旋律を歌い、1人がイの旋律を鍵盤ハーモニカで演奏する。 ・3人一緒に自分のお気に入りの旋律を演奏する。 </div>	<p>○思いや意図が伝わるかをワークシートや説明、実際の演奏を確認して聴き合うように促す。</p>

8	<p>7 できた旋律を互いに聴き合い、気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の作った旋律の良さを見付けながら聴く。 ・紹介された旋律を鍵盤ハーモニカで演奏してみる。 	<p>○児童の作った旋律を書画カメラで大型テレビに映し、全体で共有する。</p>
3	<p>8 本時のまとめをし、次時の予告を聞く。</p> <p>9 終わりの歌を歌う。</p>	<p>○本時の活動の成果を賞賛し、次時への意欲付けを図る。</p> <p>○楽しい気分で学習を終え、次時を楽しみにする気持ちを持たせる。</p>